

日常生活の支援を紹介 介助犬のデモンストレーション

なす南農協は、交通事故被害者などの障害者を支援する介助犬について理解してもらおうと7月11日、グリーンパルで「介助犬デモンストレーション」を開催しました。

会場にはひばり幼稚園と馬頭地区の各保育園の5歳児とその保護者約100名が介助犬「レイちゃん」を迎え、介助犬の日常生活の活動内容の紹介や体験などを行いました。

園児たちは車いすに乗り、レイちゃんが自動車のキーや携帯電話を捜して拾い、支援するのを体験。レイちゃんが次々と課題をクリアすると、参加者から大きな拍手を受けていました。



風土記の丘資料館で土器づくり

本物の土器を間近で見ながらオリジナルな作品を作ろうと7月22日、風土記の丘資料館小川館で「土器づくり」を行いました。

約30人の参加者は、15kgの粘土にひびが入らないように砂を混ぜ、こねました。底になる部分を作り、その上にひも状に丸めた粘土を乗せていく「輪積み法」で、土器の形を作ります。最後に竹で線を入れたり、縄目の模様をつけたりして、さまざまな作品が出来上がりました。

作成した土器は2週間乾かし野焼きされ、8月中旬ごろ完成する予定です。

第57回塩那少年野球大会

57回を迎えた塩那少年野球大会が7月14日、16日の2日間、小川小学校と小川運動場を会場に開催されました。

藤田教育長は「厳しい予選を勝ち抜いてこられた各チームには、歴史と伝統ある大会にふさわしいプレーをしてほしい」とあいさつ。その後、松の実クラブの桶山諒主将が力強く選手宣誓をすると、練習を積み重ねた16チームの熱戦が展開されました。結果は次のとおりです。

- ▼優勝 こぶしフェニックス
- ▼準優勝 南ヶ丘JBC
- ▼三位 烏山クラブ
- ▼三位 湯津上ファイターズ



馬頭高校生がふるさと美化活動

勤労の尊さと郷土愛を育むため7月23日、馬頭広重美術館などで馬頭高校生が「ふるさと美化活動」を行いました。

この活動は毎年行われているもので、馬頭広重美術館とふれあい橋、うぐいす工房付近の3カ所で実施しました。

馬頭高校1年生95名と2・3年生の希望者や生徒の保護者約20名で、午前9時から1時間半、草刈鎌を手には除草作業などのボランティアを行い、さわやかな汗を流しました。

川崎町長が秋田県美郷町を訪問
引き続き友好都市として交流を

去る7月9日から10日にかけて、川崎町長が旧小川町と交流のあった秋田県旧仙南村（平成16年11月に旧仙南村ほか2町と合併し、現在は美郷町）を訪れ、今後の交流について松田知己美郷町長と意見交換を行いました。

川崎町長は今後の交流について、「民間を中心とした交流や那須小川まほろば太鼓等の文化交流を今までどおり行っていきたい。さらに両町の職員間の交流など課題検討や情報交換を行い、お互いの町政運営にプラスとなる事業が実施できれば」と話しました。これに対して、松田町長も同じ考えであることを述べ、友好都市として引き続き交流していくこととなりました。



社会を明るくする運動

南那須地区推進大会開催される

「防ごう犯罪と非行 助けよう立ち直り」をスローガンに7月12日、小川総合福祉センターあじさいホールで「社会を明るくする運動南那須地区推進大会」が開催され、約200人が出席しました。

なす風土記の丘資料館の桑野正光館長による記念講演では、「栃木県民は年々、田舎の良さである協働の精神を失いつつあり、一方では都会のマナーが身に付かず、中途半端な県民性となっている。子どもたちに社会のモラルを身に付かせ、非行を防止するためにも、大人自身が自ら反省し、地域社会のコミュニケーション能力の向上を図らなければならぬ」と語りました。



那珂川でシマノ・ジャパンカップ
鮎釣り選手権大会

2007シマノ・ジャパンカップ鮎釣り選手権大会のセミファイナル東日本大会が7月28日、那珂川の新那珂橋付近で行われ、地区大会を制した55名が釣果を競いました。

競技は2試合の合計匹数と占有率で競い、関東大会を勝ち進んで出場した小室伸一さん（神奈川県）が27匹を釣って、占有率22・59の勝点26・5で、みごと優勝しました。優勝した小室さんには、川崎町長からコシヒカリ20kgの米俵が手渡されました。

なお、2007年チャンピオンを決める全国大会は9月1日・2日に島根県の高津川で行われ、上位入賞した6名が参加することになります。



株吉野工業所などが道路のごみ拾い



株吉野工業所の派遣会社、株キャリアイノベーションは、日ごろお世話になっている那珂川町に貢献しようとして7月29日、国道293号、294号などの清掃作業を行いました。

午前9時、吉野工業所第2工場に社員約70名が集結。星ジャパン元気づくり代表は「これからも若い人たちを巻き込んで、いろいろな活動をしていきたい」とあいさつ。「俺たち最高、きれいにするぞ」などと氣勢を上げ、15名×17名のグループ4班編成により、約2時間半、国道などのごみを拾いました。

この企画を計画した増田剛宇都宮事業所長は「今回、初めての試みですが、毎年恒例にしていきたい。そして、地元住民と一緒に実施し、交流できれば」と話していました。